



水稲用一発肥料のプラスチック殻は

水田内に留め置くように努めましょう

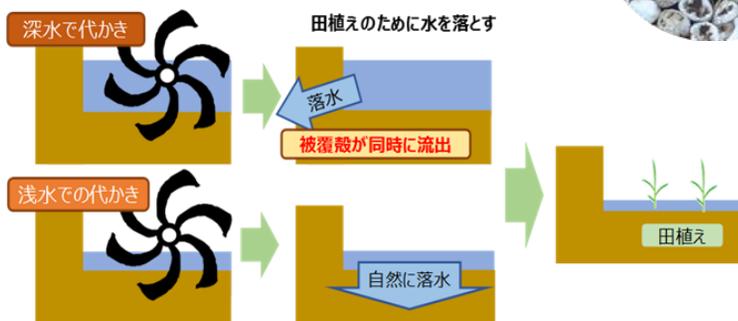
水稲用一発肥料は、水稲の生育に合わせて肥料成分が溶け出しますが、これは、プラスチック等で作った膜で肥料を覆っているためです。それにより肥料の長効き、追肥の省力化、施肥量の削減、養分の流出防止などの利点があります。一方で、肥料の溶け出した後に残った膜が河川や海へプラスチック殻となって流出し問題になっています。国のおこなった調査では、通常の代かき時に巻き上げられたプラスチック殻が、移植前の落水時にとくに流れ出ることがわかっています。

代かき時には以下の対策を参考にプラスチック殻を圃場内に留め置くように努めましょう。

1 【対策①】 浅水代かき

- 〈均平化〉 入水前に田面はできるだけ均平にしましょう。
- 〈畦畔管理〉 あぜが崩れていないか確認し、排水溝には止水板を設置しましょう。
- 〈入水量〉 大部分の地表が見えるぐらい浅めの入水にしましょう。
- 〈自然落水〉 移植前の落水は行わず、自然落水により水位を調整しましょう。

プラスチック殻



2 【対策②】 捕集ネットの使用 ※強制落水を行う場合の対応策です。

- 〈材料一覧例〉 玉ねぎネット、バーベキュー用の網、クリップ、園芸用支柱など 100 円ショップで入手できます。
- 〈設置〉 作成した捕集ネットは水尻に設置しましょう。



3 被覆肥料の殻の流出防止対策動画 ※YouTubeにて対策動画を公開しています。

〈 URL 〉 <https://youtu.be/f686ApBwBMQ>



4 製造メーカー・全農による被膜の共同研究・開発について

被膜は、環境に配慮するため光や微生物の働きにより土壌中で崩壊・分解しやすくなる工夫をしていますが、分解するまでかなりの時間がかかります。より速やかに崩壊・分解させる技術の実用化に向け、メーカーと協力した研究開発に取り組んでいます。

■ 営農 News は J A 全農いばらきホームページでもご覧になれます。